



座間小キャラクター
ざまたん

校長のつぼやき

座間市立座間小学校
校長 石田 正行

日頃、気づいたことなどをちょっとずつ、つづやいていきたいと思います。時にはぼやきになってしまうかもしれませんが。なのでつぼやき…。

【マッチ売りの少女】



図書室に立ち寄ったら立派な紙芝居を発見。「紙芝居枠」とか「紙芝居舞台」というそうです。木製で、ずいぶん前に購入したようですが、ピカピカです。この舞台があるだけで大人でもワクワクしてきます。中身はというと、名作「マッチ売りの少女」。図書館司書の先生に聞くと、このような名作を知らない子も多いとか。おはなしのストックがたくさんありました。

私が幼稚園の頃は、グリム、アンデルセン、イソップなどの童話や日本の昔話をたくさん読み聞かせてもらいました。でも、考えてみれば私の子どもには、じまじろうやアンパンマン、きかんしゃトーマスといったものが多かったなと振り返りました。なので、今の子どもにとって、マッチ売りの少女はむしろ新しいおはなしなのかもしれません。

1年生の図書の時間におじゃまして、子どもたちの様子を見ていました。図書館司書の先生の語りが始まると、



くいるように聞いている様子からは、新鮮さが伝わってきます。一周回って新しいお話なんですね。

ちなみにマッチ売りの少女のさいごは、寒さから亡くなってしまいます。先に亡くなっていたおばあちゃんが天国から迎えにきて安らかに眠る結末。愛犬パトラッシュと一緒に天国へ昇るネロのおはなし、フランダースの犬によく似ています。世界の名作には、主人公が亡くなってしまったり、オオカミのおなかを切って石を詰めて井戸に突き落としたり、かかとを切り落としてガラスの靴を履こうとしたりと、いがいと残酷なものが多いです。

全校に図書館司書の先生がいることで、図書室が充実しています。図書委員会の活動も活発で、子どもたちが作った葉が引出しにびっしり。たくさん借りた人にプレゼントするのだとか。パソコンのアプリを使ってささっと作ってしまうようで、さすが現代っ子です。



ふと窓に目を移すと、かわいいへびがいなくなり、馬の親子がお目見えしました。来年はうまどし。正式には丙午(ひのえうま)。図書ボランティアの方々が装飾してくれました。気分がほっこりします。

情熱や変化、力強い成長を象徴する年だそうです。力強くも優しい目をした馬。子どもたちも、強く優しく成長する一年であってほしいと願います。

